



## 2022年3月期第2四半期決算

**将来情報に関するご注意**

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、業績を確約するものではありません。実際の業績等は、新型コロナウイルス感染症の収束時期や、内外主要市場の経済環境、為替相場の変動など様々な要因により、大きく変動する可能性があります。重要な変更事象等が発生した場合は、適時開示等にてお知らせします。

**2021年11月2日  
双日株式会社**



- 自動車、鉄鋼・化学などの素材関連事業の回復や、石炭市況の上昇等により、上期決算における過去最高益を達成
- 基礎的営業CFは堅調に推移し、キャッシュを伴う利益を創出
- 当期純利益は期初計画を上回る進捗となり、通期見通しを上方修正
- 中間配当を9円、期末配当金額を45円に修正し、増配を予定。連結配当性向は30%程度

	20年9月期 実績	21年9月期 実績	前年同期比 差異	22/3期 期初見通し	22/3期 修正見通し	進捗率 (対修正見通し)
当期純利益	91	394 ★	303	530	700 ↑	56%
【内訳】 非資源	75	296	221			
資源	▲19	92	111			
一過性	35	6	▲29			
基礎的営業CF	209	493	284	700~750	850~900	
ネットDER	0.93倍	1.04倍	0.11倍	1.2倍	1.2倍	
■ 非資源事業 前年同期比+221億円の主な内訳				22/3期 期初見通し	22/3期 修正見通し	
・ 鉄鋼製品+77 (鉄鋼需要の回復)				ROE	8.4%	10.8%
・ 化学+55 (メタノール市況回復、合樹トレード取り扱い数量増加)				ROA	2.2%	2.9%
・ 自動車+48 (米州地域を中心とした販売台数増加)				配当	中間：7円※ 期末：35円	中間：9円※ 期末：45円 ↑
・ ヘルスケア事業、発電事業、肥料事業も安定的に収益貢献						
■ 資源事業 前年同期比+111億円の主な内訳						
・ 石炭事業+69億円、合金非鉄+33億円						

★：当社過去最高益（上期）

(※) 2021年10月1日を効力発生日とする株式5株につき1株の株式併合を実施いたしました。22/3期中間配当について、株式併合の影響を考慮した場合は、45円となります。



- 当社の2021年3月期第2四半期の決算について、ご説明します。
- 上期実績は、新型コロナウイルス感染症からの経済回復もあり、自動車、鉄鋼・化学などの素材関連事業の回復や、石炭等市況の上昇もあり、当期純利益で394億円と、上期における当社過去最高益を達成しました。
- また、基礎的営業キャッシュフローは493億円と期初見通し比堅調に進捗しており、キャッシュを伴う利益を創出しています。
- この高い進捗を踏まえ、22年3月期通期見通しを530億円から700億円に上方修正しました。
- また、上期進捗と通期見通しの上方修正に伴い、中間配当については、株式併合「前」ベースの7円から9円へ、期末配当金予想は、株式併合「後」ベースで35円から45円にそれぞれ増配を予定します。
- 引き続き、安定的かつ継続的な配当を行うことを基本とし、連結配当性向は30%程度としております。

## 業績見直し修正の考え方

Hassojitz

- 第2四半期までの進捗を踏まえ、通期見通しを530億円から**700**億円に上方修正
- 各セグメントにおける見直し修正の考え方は以下の通り

### 上方修正

#### ■ 自動車

半導体不足の影響を織り込むも、上期の進捗を踏まえ、5億円の上方修正

#### ■ 金属・資源・リサイクル

石炭市況等の足元市況の堅調な推移を織り込み、190億円の上方修正

#### ■ 化学

メタノール価格及び合成樹脂取引の上期の堅調な推移を踏まえ、15億円の上方修正

### 下方修正

#### ■ 航空産業・交通プロジェクト

一部航空関連事業取引の回復の遅れを踏まえ、5億円の下方修正

#### ■ インフラ・ヘルスケア

新規及び実行済み案件の収益化の遅れを織り込み、10億円の下方修正

#### ■ 生活産業・アグリビジネス

新型コロナウイルス感染症による東南アジアでの事業における回復の遅れを織り込み、10億円の下方修正

#### ■ リテール・コンシューマーサービス

新型コロナウイルス感染症による東南アジアでの事業における回復の遅れを織り込み、10億円の下方修正

 sojitz

Copyright © Sojitz Corporation 2021

3

- こちらのページは業績見直し修正の考え方をセグメント別にお示ししています。

- 上方修正したセグメントは、
- 海外自動車事業で前年同期比販売台数を増加させた自動車、
- 石炭等の金属資源の市況が期初の前提を上回って推移している  
金属・資源・リサイクル、
- メタノールや合成樹脂が堅調な化学、  
の3つです。
- 一方、コロナの影響、回復の遅れがみられた航空産業・交通プロジェクト、  
生活産業・アグリビジネス、リテール・コンシューマーの3本部に加え、  
新規および既存案件の収益化が遅れたインフラ・ヘルスケアを下方修正  
しました。

- 修正内容の詳細については、このあとのCFOからの説明や質疑応答で  
ご補足したいと思います。
- 全セグメントの修正見直し並びに進捗率については次のスライドにお示してい  
ますので、後程ご覧ください。

## 2022年3月期 第2四半期決算実績及び通期見通し (セグメント別当期純利益)

Hassojitz

第2四半期までの進捗を踏まえ、以下の通り通期見通しを修正

(億円)	21/9期 実績	22/3期 期初見通し	進捗率 対期初見通し	22/3期 修正見通し	進捗率 対修正見通し
当期純利益 (当社株主帰属)	394	530	74%	700	56%
■自動車	34	50	68%	55	62%
■航空産業・交通プロジェクト	14	45	31%	40	35%
■インフラ・ヘルスケア	12	75	16%	65	18%
■金属・資源・リサイクル	162	120	135%	310	52%
■化学	68	105	65%	120	57%
■生活産業・アグリビジネス	48	50	96%	40	120%
■リテール・コンシューマーサービス	19	50	38%	40	48%
■その他	37	35	106%	30	123%

## キャッシュフロー・マネジメント

3年間累計でフリー・キャッシュ・フロー（FCF）・基礎的CFともに黒字の見通し  
十分な手元資金に加え、円貨・外貨の長期コミットメントライン等の資金調達枠を確保

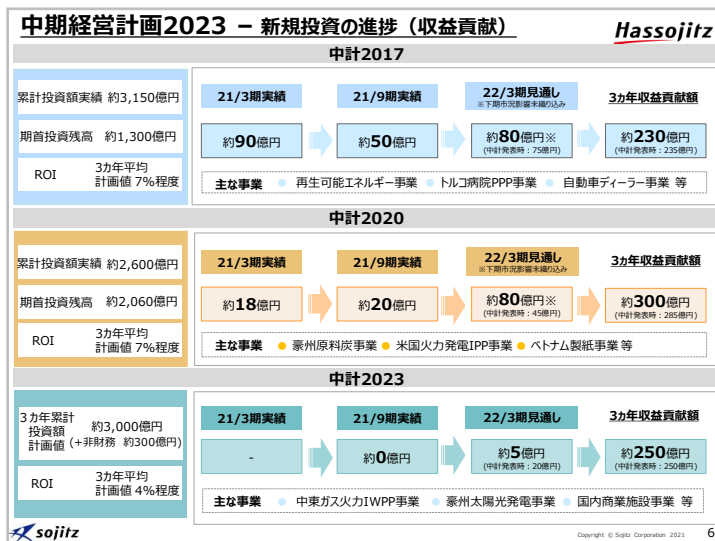
	19/3期・20/3期 実績	20/9期 実績	中期経営計画2020 3か年累計見通し (19/3期～21/3期)
基礎的営業CF（※1）	1,590 億円	210 億円	約2,000 億円
資産入替（回収）	1,270 億円	235 億円	約2,000 億円
新規投資 他	▲1,720 億円	▲190 億円	約▲2,600 億円
株主還元 他（※2）	▲500 億円	▲155 億円	約▲700 億円
基礎的CF（※3）	640 億円	100 億円	黒字
FCF	590 億円	925 億円	黒字

（※1）基礎的営業CF=会計上の営業CFから運転資金増減を控除したもの

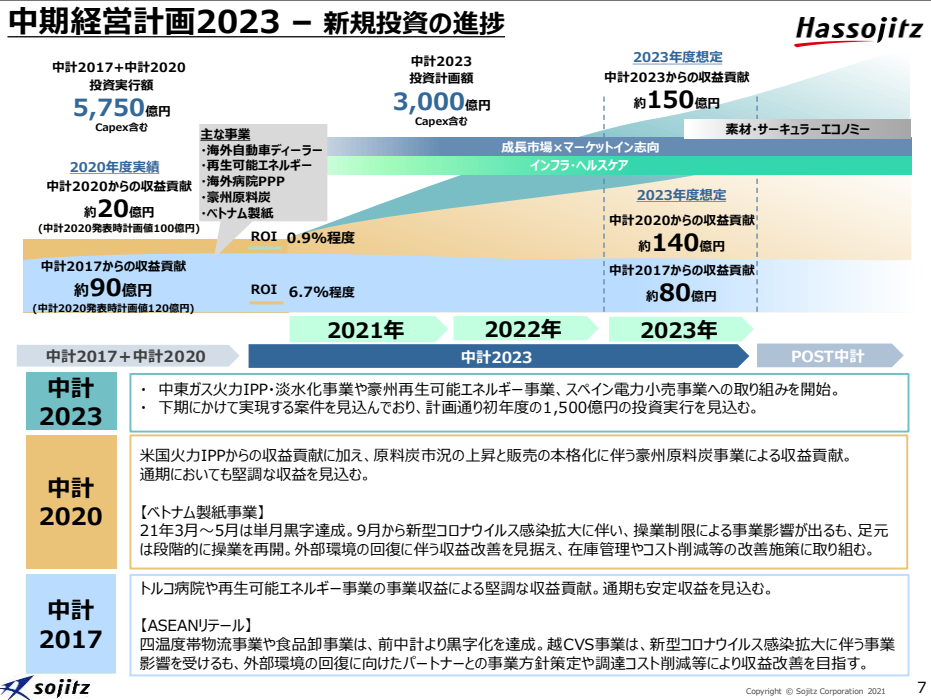
（※2）自己株式取得を含む

（※3）基礎的CF=基礎的営業CF+調整後投資CF-支払配当金-自己株式取得

- 次に、キャッシュフロー・マネジメントについてです。
- 基礎的営業キャッシュフローは期初見通し比堅調に推移し、キャッシュを伴う利益を創出しています。
- 新規投資は、中計2023公表時に3か年累計で非財務投資も含め3,300億円の計画をお伝えしましたが、今期は当初計画通り1,500億円を見込んでいます。
- 上期進捗としては約400億円にとどまっていますが、今後計画通りに進捗するとみています。
- 基礎的キャッシュフローは当初計画通り6か年累計黒字でマネージしていきます。
- キャッシュフローの状況等に関しては、後ほどCFOの田中よりご説明します。



- このページは中期経営計画2017以降の新規投資からのリターンについて、その進捗をお示しています。
- 中計2017における投資案件からの収益貢献は約50億円となり、通期での見通しは、非資源事業を中心に約80億円と、中計発表時の計画を上回る見通しです。
- 中計2020における投資案件のからの収益貢献は豪州原料炭事業を中心に約20億円でした。通期での見通しは、下期での市況影響を除き、約80億円と、中計発表時の計画を上回る見通しです。
- 一方で、中計2023で実行済み投融資からの収益貢献は、上期時点ではまだ大きな収益貢献が実現できておらず、中計発表時の計画から収益化に遅れがある状況です。
- 下期以降、大型案件を含めた投資実行を加速していきたいと考えており、早期の収益化に向け取り組んでまいります。
- 中計2023最終年度に向けた、これまで実行してきた投資の進捗状況について、次のスライドでもう少し詳しくご説明します。



● こちらのスライドでは、主な投資案件の内容、その業績進捗についてご報告します。

**(中計2023の説明) :**

- 中計2023の投資については、中東ガス火力IPP・淡水化事業や豪州再生可能エネルギー事業、スペイン電力小売事業への取り組みを開始しました。
- 下期も引き続き投資を実行すべく、海外へ直接足を運び交渉するなど精力的に取り組んでおり、今年度1,500億円の投資実行を見込んでいます。

**(中計2020の説明) :**

- 次に中計2020の投資については、米国火力IPPからの収益貢献に加え、原料炭市況の上昇と販売の本格化に伴う豪州原料炭事業による収益貢献がありました。
- 今後の市況状況は不透明な部分もありますが、通期においても堅調な収益を見込んでいます。
- 中計2020に投資したベトナム製紙事業については、様々な経営努力の結果、21年3月～5月は単月黒字を達成しました。
- 9月より新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、操業制限や工場停止による事業影響が出ましたが、足元は段階的に操業を再開しているところです。外部環境の回復に伴う収益改善を見据え、各種改善の施策を打ってまいります。

**(中計2017の説明) :**

- 中計2017の投資については、トルコ病院や再生可能エネルギー事業の事業収益による堅調な収益貢献があり、通期も安定収益を見込んでいます。
- ASEANリテール関連の投資については、四温度帯物流事業や食品卸事業は、中計2020より黒字化を達成しました。
- 一方、ベトナムのコンビニエンスストア事業については、新型コロナウイルス感染拡大に伴う事業影響を受けています。外部環境の回復に向けたパートナーとの事業方針策定や調達コスト削減等による収益改善を引き続き、目指していきます。

## 中期経営計画2023 – 投資・資産入替

Hassojitz

投資合計		403億円	
主な内訳	インフラ・ヘルスケア	167億円	中東ガス火力IPP・淡水化事業 蒙州再生可能エネルギー事業 台湾洋上風力発電事業 等
	成長市場×マーケットイン志向	160億円	国内商業施設 国内不動産 東南アジアリアル事業 等
	素材・サーキュラーエコノミー	0億円	-
	その他	76億円	非財務関連 イノベーション投資 その他
資産入替額合計		94億円	
主な内訳		産業機械関連事業、国内外発電事業、政策保有株式売却	

sojitz

Copyright © Sojitz Corporation 2021

8

- こちらのスライドは、投資と資産入替をお示ししています。
- 投資については、注力分野別に示しております。
- 投資については、一部拠出時期の後ろ倒しにより403億円となりました。
- 資産入れ替えについては、各種事業の売却や政策保有株式の売却を進め94億円の回収となりました。

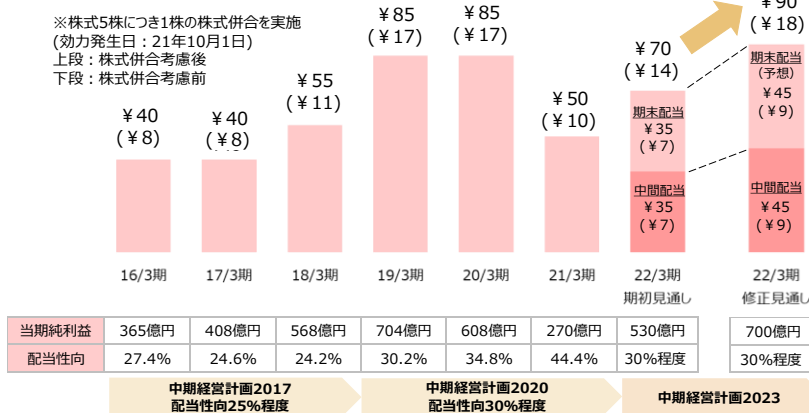


## 配当政策

Hassojitz

### 配当に関する基本方針

- 安定的かつ継続的に配当を行うとともに、内部留保の拡充と有効活用によって株主価値を向上
- 連結配当性向30%程度を基本
- 下限配当：中期経営計画2023より、PBR1倍に至るまでは時価DOE4%、PBR1倍到達後は簿価DOE4%を設定



(注1) 2021年10月1日を効力発生日とする株式5株につき1株の株式併合を実施いたしました。16/3期～22/3期中間配当については、株式併合の影響を避けた金額を記載しております。なお、グラフ内 ( ) の金額は株式併合の影響を考慮しない金額を参考値として記載しております。

(注2) 時価DOE：年間配当総額÷(当社株価日々の終値の当該年度の年間平均×期末発行済株式数)  
簿価DOE：年間配当総額÷当該年度末の株主資本(簿価)

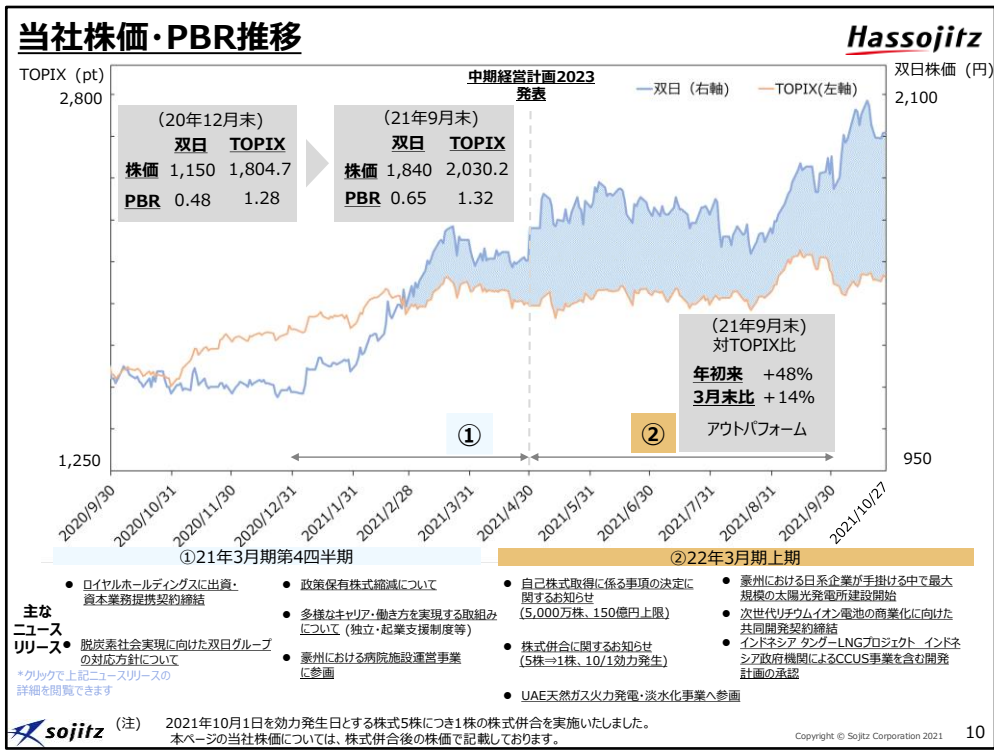
尚、時価DOEか簿価DOEのいずれを用いるかについては22年3月期末時点のPBRで判定。



Copyright © Sojitz Corporation 2021

9

- 当社の配当政策については、安定的・継続的な配当方針に変更無く、引き続き現中計期間においては配当性向を30%程度としています。
- 22年3月期第1四半期決算公表時に、22/3期通期での中間配当は株式併合「前」の金額で7円、期末配当金額を株式併合「後」の金額で35円、とお示しましたが、業績上方修正を受けて、
- 中間配当は株式併合前の金額で2円増配の9円、
- 期末配当金額は、株式併合後の金額で10円増配の45円を予定します。
- 引き続き、成長投資と資本効率を重視し、内部留保の拡充と有効活用によって株主価値の向上に邁進してまいります。



- 次のスライドは、当社の株価、TOPIXの推移を示したものです。
- 9月末時点の当社の年初来のパフォーマンスは+60%で、TOPIX比のリターンは+48%と堅調な推移となっております。
- 一方、PBRは9月末時点では0.65倍にとどまっており、引き続き株価を意識した経営を行ってまいります。

## 非財務面での取り組み - 開示情報に対する外部評価

Hassojitz

21年3月期における当社開示資料は、優良事例として官公庁からベストプラクティスとして紹介。また、外部弁護士のセミナー、法律雑誌等で取り上げられました。

### 1. コーポレートガバナンス報告書

当社コーポレートガバナンス報告書は以下の点で評価され、先行対応事例として、外部弁護士のセミナーや法律雑誌等で紹介

<ポイント>

- 東京証券取引所による改訂版コーポレートガバナンス・コードの公表（本年6月11日）から**わずか1週間後の2021年6月18日（定時株主総会総会後遅滞なく）にCG報告書の提出完了。**
- 当社CG報告書は、改訂CGコードで変更・新設された**全ての原則について対応済み。**
- 特に、【補充原則2-4①】（企業の中核人材における多様性の確保）および【補充原則3-1③】（サステナビリティを巡る課題への取組み）では、**具体的かつ明確な目標値を記載しており、改訂CGコードに対応する他社の模範**となる。

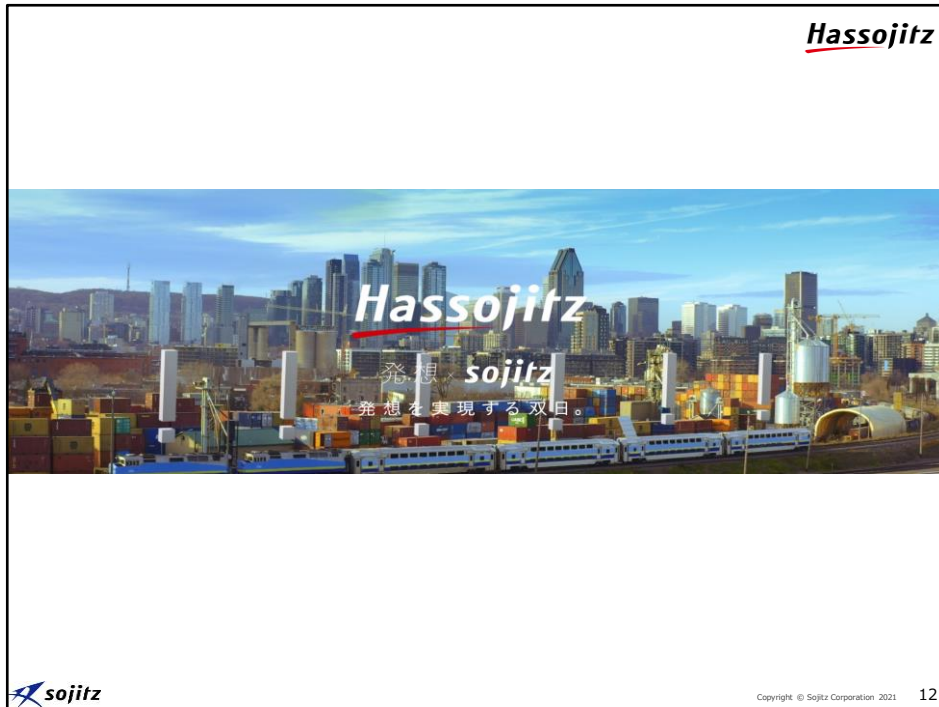
### 2. 人権方針、サステナビリティチャレンジ等、当社HPにて公開している情報

外務省「『ビジネスと人権』に関する取組事例集」（2021年9月公表）にて、当社対応が優良事例として紹介（全15社、**総合商社としては当社のみ**）



Copyright © Sojitz Corporation 2021 11

- 次は、当社は非財務面での開示拡充の取り組みを進めています。
- 人権方針、サステナビリティチャレンジ等、当社ホームページで公開している情報などが、官公庁、外部セミナーなどで優良事例として紹介されております。
- 当社は引き続き、ステークホルダーとの対話を工夫しながら、努力してまいります。



- 最後に、
- 22年3月期上期決算では、着実な収益力をお示しましたが、世界各国ではコロナ禍の影響はまだ見受けられます。
- 必要なモノ・サービスを、皆さまの必要なところに提供するという総合商社の使命を胸に刻み、
- 当社のお客様との強いパートナーシップを礎に、ステークホルダーの皆様の期待に応え続けていきたいと思えます。
- わたしたちは今後も変化を機会に変えるべく、自らを変革させ続け、引き続き、皆さまとの対話を重視して参ります。
- 以上で、私からの説明を終わらせていただきます。
- ご清聴ありがとうございました。